

【2020年度口語詩句新人賞・奨励賞】

撰：龍 秀美

■新人賞・奨励賞推薦理由

【うすしか】東京都

じゃあお母さんが
おにんぎょう役ね

卒業アルバムで
笑ってる方の佐藤が
死んだ方の佐藤

ママ、おんぶして
って母が泣いて言うから
私は母をおんぶする

ほっとくと鳥になっている子供

<対象との位置の取り方、人と人の関係性に対する感受税が鋭く、様々な場面を想起させる
個性的な言葉の力。>

【長谷川柊香】宮城県

頭よりわずかに重い西瓜かな

遠雷よ水子は兄か姉か

麦わら帽逆さに持つと軽くなる

山肌に墓石ささっている四月

<震災以降に目覚めたひとつの新しい身体感覚のようなものを感じさせる。動詞を駆使し
て作る鮮やかな映像も新鮮。>

【青木 雅】埼玉県

正直な犬だね絶えず変化している

びしょ濡れの短歌の僕が先に行く

東京に埋もれちゃってるおじさんの
骨を拾ってあげたい、全部

醜くも美しくもない人たちと
レジに並んで順番を待つ

<人やモノや現象に憑依して一体化する能力を感じる。そうするとそこに清新な異世界が現れる。>

【山口 航平】東京都

幸福とは
深爪した親父が
缶ビールを中々開けられず
なお 微笑むあれだ

青い静寂が
唾えタバコで
哲学していた

母が見せてくれた
僕の母子手帳は
まるで詩集のようだった

<造形的な作品と心情的な作品があり、二つの長所がうまく合わさった作品が面白い。>